

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症になっても地域で生活できる施設」を目指し、事業者独自の理念をつくりあげている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を提示し、申し送りの際、折に触れわかり易く話し、実践に向けて努力している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関横に理念を掲示し、家族にお会いした時など、わかり易く話すようにしている。また、地域の行事への参加も積極的に行っている。管理者は地域の民生委員を行っていた事があり、ホームの説明や広報に取り組んだ事もある。	近所の美容院を利用させてもらい、カットに来てもらったりしている。今後、地域の老人会のゲートボールに参加させてもらう予定があるので、今後少しずつ地域との繋がりを増やし、運営理念の啓発・広報に努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在、老人会のゲートボールに参加させてもらう計画を立てている。	老人会のゲートボールに参加し、これを良い機会にし、今後協力を得ていけるように努力していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加し、交流を持っている。	老人会のゲートボールに参加を予定しているので、これを良い機会にし、交流を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の皆様からの相談事があり 相談にのっている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の調査で指摘を受け、介護計画の長期・短期目標の期間を設定し、段階的に達成に向けた介護を行うよう改善努力している。また、運営推進委員会や老人会との交流等、少しずつ改善に向けて努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会に取り組みだしたところであり、入居者間や、家族間の交流を深める事が出来てきている。また、家族の方とは月に1度は園長が会う機会を設け、家族の意見を聞き取り、サービス向上に活かす事が出来ている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケースワーカーの方と入居者個人の事や、家族の事についても情報の交換が出来ており、サービスの向上に貢献できている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については折にふれ学習している。今のところ入居者の方には家族がおり、必要とされる方はいない。		今後、必要な人には活用出来るよう支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等に参加し、権利擁護等についても学び、虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	わかりやすい説明を心がけ、不安や疑問については必ず何度か尋ねるようにしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者からスタッフへは日頃から意見、苦情、不満等を出してもらっており、今年度からは介護相談員に来てもらうよう申し込みをし、2/22に最初の訪問を受け、意見等を運営に反映させる事が出来ている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	少なくとも月に1度は家族の方と園長が会う機会を設けており、その際に近況報告も行っており、何かあれば、その都度連絡をしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御意見箱を玄関に設置している。家族からスタッフへ意見等、話してもらいやすい雰囲気づくりに努め、意見等あった時には、出来るだけすぐに対応している。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に1度ミーティングを開き、スタッフ皆で意見の交換等、行っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	その時々々の状況に合わせ、勤務時間等、調節している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	スタッフに異動はなく、スタッフが仕事をしやすい環境づくりに努力し、離職は必要最小限度に抑えられており、利用者へのダメージは防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>スタッフの募集については年齢や性別の制限はしておらず、働いているスタッフには働きやすく、仕事以外の生活にもゆとりが持てるように職場の環境作りには充分配慮している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権についての講習等ある時には、積極的に参加するよう促し、人権に対する意識を高めるよう取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会と地域の勉強会の2つの活動に参加させてもらい、職員の育成を図っている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者とは交流を持ち、情報交換等行っており、勉強会などにも参加させてもらい、質の向上に向けて取り組んでいる。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月に1度ミーティングを開き、スタッフ皆で意見の交換等、行っており、仕事が終わった後にゆっくりと話す時間を設けたり、食事に行ったりする等、ストレス解消の為の努力をしている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>行事や仕事の役割を持ってもらい、計画から実行まで責任をもって行うように任せている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や相談等、希望があれば、いつでも受け付けており、その際に困っている事、不安な事等ないか尋ね、聞くようになっている。何かあればそれに対して出来るだけの対処をするよう努力している。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や相談等、希望があれば、いつでも受け付けており、その際に困っている事、不安な事等ないか尋ね、聴くようになっている。何かあればそれに対して出来るだけの対処をするよう努力している。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時に、しっかりと話を聴き、何に困っているか、何を必要とされているかを把握し、入居にこだわらず出来る範囲での支援に努めている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学等で園に来てもらい雰囲気等を見てもらうようしており、希望があれば体験入居してもらい実際の園での暮らしを体験出来るようになっている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が出来る事はなるべくしてもらい、役割を持ってもらうよう働きかけたり、畑を耕し一緒に収穫する等、得意な分野は教えてもらったり、手伝ってもらって事を大切にしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と連絡を取り合い、出来るだけ利用者に顔を見せてもらうように働きかけている。その中で本人の為に協力して欲しい事などあれば相談出来る関係を築けている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族から少しずつ話を聴いていき、間に入って良い関係を保てるように努力している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族の方には出来るだけ月に1回以上は来てもらえるように働きかけ、必要に応じ、送迎なども行っている。馴染みの人には遊びに来てもらいやすい対応に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係の把握に努め、利用者同士が支えあえる良好な関係作りを努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、関係を持ち、利用者や家族の状態が落ち着くまでは必要な支援を出来る範囲で行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりのニーズの把握に努め、思いを表現出来ない方には利用者本位の視点から支援している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>1人ひとりの、これまでの生活や暮らし方を、家族や本人、関わりのある人から話を聴く等して利用者個人の把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一ヶ月に1度はケアプランの評価を含め1人の利用者についての話し合いを持ち、朝・夕の申し送りで行う日々の状態をスタッフ皆が把握出来るようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の面会時に意見や希望を聞き、利用者からはニーズを汲み取ってケアプランに反映させている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度は見直しを行っており、状況に変化があった際には、その都度プランの見直しを行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かく日誌に記録しており、申し送りによって情報の共有をしている。その上で日々のケアの実践に取り組んでおり、プランの見直しにも役立っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には2~3度来てもらっている。		今後、運営推進会議を通して協力を呼びかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて相談している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ出ていない。		必要に応じて協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ入居前に本人が受診していた病院を継続して受診し、医療機関と連携をとるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	松岡病院の堂本医師に勉強会を依頼し、スタッフの質問等に答えてもらったりしており、必要と思われる利用者には家族とも相談し、受診を検討している。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに近くの日赤病院に長く勤めていた看護師がおり、日常の健康管理や、日赤病院との連携がスムーズに行えている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には医療機関と家族の方と情報交換や相談をしながら、適切な退院時期を決めるように努めている。また、入院中のお世話に関しても出来る範囲で家族と共に行っている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来るだけ早い段階から情報交換を密に行って、状態が悪化した時の対応についての話をもつようにしている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師への相談、家族との話し合い、職員での話し合いを充分行っている。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居や退去の際には情報交換を充分行い、なじみの物や長年の生活習慣を出来る限り維持できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常のケアの中で利用者の尊厳を傷付けないように配慮しており、個人情報の取り扱いに関しても、十分に気を配っている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>本人の思いや希望を聞きだせるように、コミュニケーションを取り、信頼関係を築く事に努めている。また、思いを表しにくい方には、気持ちを汲み取れるように細かな観察も行い支援している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴等、基本的にスタッフの都合ではなく、利用者の希望で入れるように支援している。利用者の希望があれば、出来るだけ希望に添えるよう援助している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人らしい服装などには配慮しており、希望がある方は、希望の美容室等を利用してもらえるよう支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれ好き嫌いがあるので、時々好きな物を提供するよう、出来る範囲で手伝ってもらっている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>たばこを吸われる方はいない。飲み物やおやつ等は本人の希望や状況に応じて楽しめるように支援している。お酒は正月のおとそを楽しんでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>出来るだけトイレで排泄するように援助しており、尿意や便意がわからない方でも時間を見て誘導するなどして失禁を減らすよう支援している。</p>		
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的に利用者の希望された時に入浴できるよう支援している。</p>		
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>休みたい希望があれば、状況に応じて時間に関わらず休んでもらっている。また、個人の身体・精神状況や習慣に対応して適度な休息を取れるように支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>出来る方には役割を持ってもらうように支援し、掃除などをしてもらったり、畑の世話を楽しみにしてもらっている。</p>		
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理が出来る方には小額のお金をもってもらっており、外出時等にお買い物を楽しまれている。</p>		
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望と状況に応じて、その都度外出の支援を行っている。</p>		
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している</p>	<p>希望があれば家族と話し、出かけられるように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙の支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間など決めずに、いつでも立ち寄ってもらえるようにし、訪問の際にはお茶を出す等し、ゆっくりして頂けるように支援しており、必要に応じて、連絡や送迎等も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないように、日々のケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室にて過ごされる方や、1人で入浴される方には、時間を見て声掛け行き様子観察、安全確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者やその時の状態に合わせ、物品を管理し、危険を防ぐように対応している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止には特に気を付けており、転倒防止にセンサーマットを敷いたり、服薬のチェックを2人でし、チェック表に記入する等、工夫し、取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、いつでも見られる場所に掲示している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、消防署にも働きかけ、災害に備えている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の方に主治医の先生からの話を伝え、今後の対応や危険性について話したり、入居時に緊急の場合についての話を持つようにしている。また、家族や本人の希望を尊重し、柔軟な対応が取れるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時にバイタル測定を行い、観察を細かくし、いつもと違う事があったら記録を残し、申し送り、必要に応じてバイタルチェック等を行い、医療機関と連携を持って対応するようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、いつでも確認できるようにしており、薬の変更などあった時には個人ノートや日誌に記録し、確実に申し送っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘が続く事のないように気を配り、便秘がちな利用者にはおやつに牛乳やヨーグルトを出したり、散歩や歩行練習等を促したりしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは歯科医と相談して、一人ひとりの力や状態に応じて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェック表に記入し、利用者1人ひとりの状況を把握しており摂取量の少ない方には個々に応じて摂取量アップへの工夫や働きかけを行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを参考にし、対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の衛生管理は専任の担当者が随時行っています、新鮮な食材を仕入れる為、1週間に数回、朝から仕入れに行っています、食材は専用の冷蔵庫、保管庫になおしています、		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関から道路沿いの門まで10m以上ありスロープになっていて広がっているので、危険性が低くなっています、門には電動のゲートがあるので、閉めていけば、車が急に入ってくる危険はありません。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車の音がうるさい方には、窓は2重にして、直射日光がまぶしい所は遮光フィルムを窓に張ったりしています、玄関など外部の人が入ってきた時など直接、見えないように鉢植えの植木を置いています。リビングにも植木があり季節感があり食事メニューも季節の物を優先して取り入れています。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のコーナーやリビングのコーナーなどに数人座れるスペースをつくり、利用者の気の合った人同士で話やお菓子を食べたりしながら楽しんでいらしゃいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重して自分で使っていた物などを希望する配置で居室を準備しています。又家族の写真など身近な人をいつも見る事ができる様にしています。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においに対しては消臭剤、空気の入替え等をこまめに行っている。温度調整は各部屋に温度計を置いて快適な温度にこまめに調整している。		一人一人暑がり 寒がりの方がいるので状況に応じてこまめに温度調整して対応しているが、個別にリビング内で温度調整できるように取り組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室内にも必要に応じて介護ベットや手すり センサーマットで危険回避し、ポータブルトイレ利用している。又、視力低下が多々あるので、廊下なども採光を良くしている。		車椅子生活の利用者が多数いらっしゃいますので、車椅子での移乗、移動がスムーズできるように取り組んでいきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分でできる事は自分で行動してもらって、失敗しない様にスタッフにより助言や介助を行い自立に近い生活が過ごせるように工夫している。		一人一人困っている事、混乱しそうな事、失敗しそうな事をスタッフ全員が把握してそのような場面にならないように援助、誘導して行く。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	建物の周りでおやつを食べながら日光浴をしたり 散歩したり 家庭菜園を作り維持して収穫まで毎日すこぶつでも活動して行く。		これからも室内だけでなく、建物の周りで手軽に気分をリフレッシュして行きたいと思います。

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ひかりの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人一人のニーズに対応し、日々の暮らしで満足に近づけるように、室内外のレクリエーションを催して季節の行事を行い、一人で買い物や散髪、散歩などにも対応しています。

家族や友人などと会う事ができるように、送迎や連絡をしています。